

2004年11月16日

会社名 株式会社 大丸
 コード番号 8234
 代表者名 取締役会長 奥田 務

2004年10月度 大丸 連結営業報告

1. セグメント別売上高対前年増減率(%)

	10 月 度	9 ~ 10月 累 計
百貨店業	2.8	3.5
スーパーマーケット業	4.2	0.3
卸 売 業	6.6	2.1
その他事業	8.5	11.6
連結合計	1.2	1.5

(注) 売上高にはその他営業収入を含めていない。また、各事業の売上高には連結会社間の売上高を含む。

2. 百貨店業 売上高概況

1) 店舗別売上高対前年増減率(%)

	10 月 度		9 ~ 10月 累 計	
	売上高	入店客数	売上高	入店客数
心齋橋店	1.3	4.2	1.6	8.8
梅田店	1.5	0.9	3.6	4.4
東京店	5.3	1.5	0.8	3.0
京都店	3.0	1.9	1.7	3.2
山科店	0.6	-	3.7	-
神戸店	1.6	0.7	1.5	2.3
新長田店	9.9	-	7.7	-
須磨店	8.7	-	9.1	-
芦屋店	1.7	-	12.0	-
札幌店	7.3	1.9	6.2	0.1
直営10店舗計	0.5	0.3	1.6	2.7
博多大丸	12.6	13.4	10.7	11.1
下関大丸	8.4	8.4	9.3	7.8
高知大丸	2.3	3.2	5.2	7.1
今治大丸	4.9	5.0	6.7	10.5
百貨店業合計	2.8	-	3.5	-

(注) 直営店の入店客数合計の対前年増減率は、心齋橋、梅田、東京、京都、神戸、札幌の6店計である。

2) 直営店 商品別売上高対前年増減率(%)

	10 月 度	9 ~ 10月 累 計
紳士服・洋品	0.2	1.5
婦人服・洋品	3.3	3.9
子供服・洋品	3.7	9.0
その他の衣料品	6.3	5.9
衣料品計	2.7	3.8
身の回り品	2.8	0.1
家具	0.4	8.4
家電	6.0	5.8
その他の家庭用品	3.1	3.2
家庭用品計	1.5	4.0
食 料 品	0.7	0.3
食堂・喫茶	3.5	6.1
雑 貨	8.5	6.8
サ ー ビ ス	1.3	3.4
そ の 他	14.1	6.7
合 計	0.5	1.6

3. 概況

1) 百貨店業

- ・10月の百貨店業の売上高は、本年は土曜日、日曜日が対前年計2日増であったものの、高温のため重衣料の動きが鈍かったことや、二度にわたる台風上陸の影響を大きく受けたことで、直営店では対前年0.5%減、全体では同2.8%減となった。
- ・直営店の店別売上高は、札幌店は対前年7.3%増と6ヶ月連続で前年を上回り、また東京店も開店50周年記念販促が奏効し同5.3%増と好調に推移したが、その他は前年を下回った。特に、下旬の台風襲来の影響は大きく、直営10店舗のうち東京店、札幌店を除く8店舗でいずれも閉店時刻を大幅に繰り上げたことも響いた。
- ・商品別では、婦人服は重点アイテムのコートを中心に動きが鈍く、苦戦。一方、紳士服はヤングアダルトキャラクターが牽引し、堅調であった。雑貨は梅田店の化粧品売場改装効果をはじめ、全社で取組んだ大型逸品催事が盛況で高級絵画や宝飾品が大きく売上を伸ばした。
- ・博多大丸、下関大丸等の関係百貨店は台風の影響に加え、特に博多大丸は前年に開催したダイエーホークス優勝セールの変動などもあって苦戦した。

2) その他

- ・スーパーマーケット業の大丸ピーコックの売上高は、対前年4.2%増であった。関東地区は大丸東京店50周年企画と連動させ共同で取組んだ青山店開店40周年記念販促などが功を奏し、対前年5.2%増、関西地区は箕面カルフルなど既存店近隣への新規出店攻勢が一巡したこともあり、同3.2%増となった。
- ・卸売業の大丸興業の売上高は、電子部品や繊維製品が好調であったものの、食品や資材などの不振により対前年6.6%減となった。
- ・その他事業では、建装事業の大丸装工や人材派遣業のディンプルなどが好調であった。

お問い合わせ先	株式会社	大丸	グループ本社	広報・IR部
		TEL	06-6281-9002	
		FAX	06-6245-1343	